令和 5 年度　学校評価総括表　　学校名　生駒市立生駒東小学校　　所属長名　清水良亮　　印

Ⅰ 学校教育目標

広く世界に目を向け、次の世代を担う、豊かな心をもった、たくましい子どもを育てる。
・ めざす学校　（○笑顔にあふれ、生き生きと学び合う学校　○生命あるものへのやさしい心が育つ学校　○安全に、安心して学べる学校）
・ めざす子ども　（○自ら学び、深く考え、行動する子ども　○思いやりがあり、助け合う子ども　○自他の生命と体を大切にする子ども）
・ めざす教師　（○豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師　○常に新たなことに挑戦する教師　○学校組織の一員としての責任を自覚し、協働する教師）

Ⅱ 前年度に残された課題	Ⅲ 本年度の重点課題	Ⅳ 来年度に残された課題
①朝のストレッチや体育科を通して、体力テストの考察に応じた基本的な体力を高めていくことが課題となる。 　低学年から系統立てて指導するために、各学年での指導内容を明確にする。 ②児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。また、生徒指導上の課題や問題に働きかけができていない状況であったため、人権教育部と生徒指導部、各学年と情報共有を図り、取組を進める。 　特別の教科道徳を通して、児童の変容に焦点をあてた取組をする。 ③学校生活の約束に関しては、全職員が共通理解を図ることができるよう、定例部会や学期ごとに職員間の意思統一を行う。また、全職員が同じ視点で指導できるようにする。 　配慮の必要な児童への指導や支援については、ケース会議を開催し、全職員で対応できる体制をとる。生徒指導上の問題や課題について、相談、検討できる体制づくりに一層努める。 ④児童は、タブレット端末を活用し意見や気持ちを表現し、伝えることには慣れているが、「話すこと・聞くこと」において伝えるべき相手に自分の意見や気持ちを伝えることは弱い。 　自分の思いや考えを深め、伝えることができる子をめざし、国語科で学ぶべき基本的な能力である「話すこと」「聞くこと」「伝え合うこと」の三つに焦点を当てて、研修を進める。	①体育科の授業や朝の時間に体操を計画的に行い、本校の課題である柔軟性や筋力の向上をめざす。また、仲間とのかかわりや多様な運動を通して、運動の楽しさに気づかせる。また、昨年度の指導内容を引き継ぎながら系統立てて基礎的な運動能力を伸ばす。 ②児童が安心して学校生活を送れているか児童の心と行動の変容に目を配る。 　また、学年や各部との情報共有、一貫したアプローチができるよう連携を図る。 一人一人を大切にした学校、学級づくりを通して、共感的な人間関係を育む。 ③児童自ら生活を振り返る中で、その活動意義を掴みとり、主体的に行動できるようにする。また、児童がお互いに声をかけ合いながら規範意識を高めていく。 　定例部会や終礼を活用し、生徒指導上の課題について、早期対応を行い、職員間の意思統一、特に一貫した継続指導ができる ④国語科「話すこと・聞くこと」の授業において、自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを知ったりすることを通して、学び合う力を養う授業の工夫を目指して取り組みを進めていく。	①低学年から系統立てて指導するために、各学年での指導内容を明確にしてきたが、評価方法や児童の意欲も含めた計画の見直しが課題となる。 　授業のウォーミングアップ等を活用し、自分たちで必要な動きを考えて活動する時間を設け、楽しみながら体を動かせる機会を設ける。 ②人権教育推進のために、大切にしていく視点や縦のつながりを意識した明確なめざす子ども像、子どもの実態に即した取組の見直しを図る。より統一して指導できるように、人権教育に関する課題の情報共有を綿密に行う。 ③生徒指導上の課題には早期に対応していく。また、早期対応という点では、チーム対応を心がけ、指導の軸がずれていかないよう進めていく。生徒指導上の課題だけでなく、ルールなども含め情報共有を図り、教職員が同じ思いをもって、児童に接していけるようにするのが大きな課題である。 ④主体的・対話的で深い学びの実現に取り組むにあたって、土台となる学級経営が大切であるという認識を再確認すること。また、「話すこと・聞くこと」の授業において、相手や目的、評価等を意識できるよう組み立てる必要がある。

（重点評価課題番号）［1］	[2]具体的達成目標と評価指標	評定	[3]自己評価	[4]外部アンケートの分析		評定	[5]自己評価		[6]学校関係者評価
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		中間評価	児童生徒アンケート	保護者アンケート		最終評価（成果と課題）	課題の改善策等	評価者人数
			評価日　8月下旬	実施日　1月上旬	実施日　12月上旬		評価日	3月1日	評価日　2月29日
	公表日　6月12日		公表日　9月下旬	公表日　2月26日	公表日　1月26日		公表日	3月21日	公表日　3月25日
	公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☑ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☑ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☑ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他
1	○朝の体操を計画的に実施できるように、年間計画を作成する。具体的な動きがわかるように動画を作成する。 ○仲間と楽しく身体を動かすことができるように、各学級で学級遊びを行ったり、運動集会への参加を促す。 ○学習カードを活用し、自分の運動技能の伸長に着目できるようにする。 ○「運動することが好き」と答える児童が80%以上いる。 ○「体育の勉強でできることが増えた」と答える児童が80%以上いる。		○「運動することが好き」と答えた児童が90.2%、「できることが増えた」と答えた児童が93.6%であった。多くの児童が運動に親しみ、達成感を持っていることがわかる。しかし、1割以上の児童が外遊びを全くしていなかったり、運動が嫌いと答えている。体育の授業や集会を通して仲間と楽しく身体を動かす機会を増やしていきたい。 ○学習カードやICT機器を用いることで児童があめてを意識したり、達成感を感じたりすることができた。より多くの児童が達成感や技能の伸びを感じることができるように手だてを考えていきたい。	○1学期に引き続き肯定的な意見の割合が多い。「運動することが好き」が90.3%、「体育の勉強でできることが増えたり、記録を伸ばしたりできた」が94.1%であった。 ○目標の80%を大きく達成できた。 ○体育の授業では、児童の実態に応じ、計画的に行い、学習のめあてを細かく設定することで、児童の体力を伸ばし、達成感を持てるようにしていきたい。 ○1学期のアンケートに比べて、「休み時間に外で元気に身体を動かした」と答えた児童が減っている。 ○学級遊びや運動集会を通して児童が仲間とともに身体を動かす事の楽しさを感じることができる活動を引き続き取り組みを行う。	○「学校は、子どもの体力向上に取り組んでいる」の項目で肯定的な意見が89.1.%で、前年度に比べると10%ほど減少していた。 ○運動会が午前開催となり、また、マラソンがなくなったりしたことで、保護者が見る機会が減ったことが一因となっている。 ○運動タイムや朝の体操を継続して行い、児童の体力の高まりをより実感できるように、体力テストなどの目に見える形でも成果を上げていく必要がある。		○運動に親しみを持っている児童が多く、体力づくり、仲間づくりのよい機会となっている。 ○休み時間の過ごし方を見ていると、季節によっては、屋内で過ごしている児童が多く見られる時がある。 ○体育の授業において、児童の実態に応じ、スモールステップ方式でめあてを設定した。ルールを工夫するなど、運動に苦手意識がある児童でも、進んで運動に取り組むことができた。 ○授業を通し、友だち同士で声を掛け合い、補助をしたりする機会を増やし、学び合い学習ができる環境をより整えていきたい。 ○ICT機器を効果的に活用したこと。児童自身が改善点を明確にし、運動への意欲やできたことが達成感へとつなげることができた。 ○体力向上の面で考えると、課題が残っている。 ○今後も多くの児童を運動に親しませて、	○学級でおこなうクラス遊び、学年でおこなう運動タイム、運動集会など、1年を通して運動に関わる機会引き続き多く作っていく。 ○授業のウォーミングアップ等を使って、単元目標を達成するために、自分たちで必要な動きを考えて活動する時間を設け、楽しみながら体を動かせるようにする。	○生駒東小学校の運動に関する課題を把握したうえで、体育科や日々の取り組みを含め改善に努めてほしい。 ○体育科の中での、タブレット活用が、意欲の向上につながっている。
2	○児童の実態を把握し、支援の方法について職員で情報共有したり、研修したりする。 ○すべての児童がわかりやすい授業を目指す。 ○ぽかぽか言葉の指導を行い、日常的にぽかぽか言葉を意識させる。 ○すべての児童に活躍の場を与える。 ○「なかまとともに学ぶことを楽しい」と感じている児童を85%以上いる		○「なかまと協力して活動できた」と回答した児童は、97.7%だった。協力して活動することの大切さを児童が理解できていると考えられる。 ○「仲間ががんばる様子を見て自分も頑張ろうと思ったか。」の質問に対して、一部の児童が友だちの頑張る様子を見てもがんばろうと思えていない。自信のなさや経験のなさから前向きに取り組めていないのではないかと考える。課題に挑戦する中で、友だちと協力して成功する体験を積ませるようにしたい。 ○友だちに対しての言葉かけ 多くの児童が友だちに対して優しく言葉はかけられている。ぽかぽか言葉を実感が伴って使えるように、一人一人の良さや違いを肯定的に受け止めることができることが大切だと思う。「人権を確かめ合うアンケート」から、「教職員からのうれしい言動により児童の多様性を尊重する態度が養われる。」「児童生徒がちがいを認めるようになることによって、相手を嫌な気持ちにさせる言動の減少につながる」という分析が出ているので、まずは、教師が率先して、児童の良さを認めるようにしていきたい。 また、優しい言葉をかけられている子も多い。優しく言葉をかけられていると回答した子は、集団の中で自分は大切にされていると実感しているのではないかと考える。優しく	○「なかまと協力して活動できた」と回答した児童は、1学期に引き続き肯定的な意見が多い。しかし、「楽しくない。できなかった。」と答えている児童が1%ほどいるので、その児童の思いに寄り添っていきたい。 ○「仲間ががんばる様子を見て自分も頑張ろうと思ったか。」の質問に対して、行事などを通して仲間と協力して活動することで、「自分もがんばろう」と刺激を受けている児童が多くいる。 ○1割程度の児童が仲間の頑張る様子を見てもあまりがんばろうと思えていない、成功体験から自信を持たせ、周りの良さにも目を向けることができるようにしたい。 ○仲間に対して優しく言葉はかけることができている。肯定的な意見が多いが、1学期より数値が減っている。 ○仲間に対して優しい気持ちをより育むことができるように、お互いの良さを共感的に理解できるような集団作りを今後も進めていきたい。 ○優しく言葉をかけてもらっていないと感じている児童に対しては、個々に声かけをして励ましていきたい。	○「子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている。」「学校は、子どもたちに思いやりの心をもたせ、あたたかい学級・学級づくりに取り組んでいる。」は、ともに昨年度よりも肯定的な意見が多くなっている。 ○「わからない」と答えている割合が減っている。 ○新型コロナウイルス感染症が5類になり、学校行事を保護者に公開することが多くなった。学校での様子を見て、安心してもらえていることからきていると思う。 ○今後も安心できる集団づくりを進めていきたい。 また、保護者にも学校の取組や児童の活躍や成		○児童アンケートで、「学校生活で仲間と協力して活動できた。」や「友だちが頑張る様子を見て、自分もがんばろうと思えた。」の質問に肯定的に答えた児童がともに９７％を超えている。 ○日々の集団づくりや学習活動の中で、本校の人権教育目標である「あたたかい学校・学級づくり」が実現できているのではないかと思う。 ○一部の児童は、上記の質問に否定的に答えている。また、児童の様子を見ていると、思いやりのない言動が見られる場面もある。そのような様子から引き続き人権教育目標の達成に向けて取り組みを進めていきたい。	○児童理解に努める。そして、一人一人の思いや考えを大切にして、多様性を活かした集団づくりを進めていきたい。仲間と力を合わせて様々なことに取り組む経験を数多く積ませることで、より一層あたたかい学校・学級づくりにつながっていくと考える。 ○教職員の中で、情報共有を密にし、多くの目で児童の成長を見守るようにしていきたい。 ○それぞれの教員が人権教育推進のために、日々指導にあたっているが、より統一して指導に当たることができるように、年度初めに人権教育推進のために大切な視点を共通理解する。また、目指すべき児童像を明確に設定する。この２つから学校としての取り組みを系統だてていけるようにしたい。	○自己肯定感を高めるための活動について成果を上げているように感じる。 ○子どもたちの自尊感情の見立てを、アンケートや日頃の活動から見ているところも評価できる。 ○今後も、子どもたちの自己肯定感を高められるよう、教育活動をつつけてもらいたい。
3	○年間目標を各教室・廊下等に掲示する。 ○委員会の児童を中心に、お互いに声かけを行い、廊下の歩き方や過ごし方を意識させる。 ○サイレント掃除を実施し、みんなが気持ちよく過ごしやすい清掃活動をさせる。 ○相手にとどく、心地よいあいさつができるよう、心がけさせる。 ○夏季休業中に、廊下中央の印を描き直し、右側通行を意識させる。 ○廊下歩行の約束を守れたと答える児童が80%以上いる。 ○みんながきれいと思える掃除ができたと答える児童が80%以上いる。 ○相手にとどくあいさつができたと感じている児童が90%以上いる。		○「廊下歩行・右側通行」 アンケート結果より、実際は廊下を走る児童の数が、例年増加していると感じている教職員が多いことがわかる。廊下を走ってしまう理由は「急いでいるから」「たくさん遊びたいから」が最も多かった。しかし、その一方、「廊下を走ってはいけない」「廊下を歩くルールを知っている」という児童が多どであった。以上のことから、規範意識が育っているが、その他の部分に廊下を走ってしまう要因があると方向転換し、児童が守らざるを得ない環境づくりを最優先にする必要がある。 →「児童のに心に余裕がないこと、集団遊びが少なくなってきたこと」が原因と考える。 改善案：自分がケガをしてしまった後のこと、けがをさせてしまった後に待っている行動を、未来予想させる指導を取り入れていくこと、児童同士が声を掛け合い、自治的な集団力をつけていくよう声をかけていく。 ○「サイレント掃除」 余計な話をすることなく、全学年共通してサイレント掃除ができていないことがわかる。 1学期にサイレント掃除の目的については共有し、統一した指導をして頂いた。しかし、教職員全員が、サイレント掃除の目的を理解しているわけではなかった（今までそうしてきたからという流れを踏襲して指導してきたという背景があった）ため、児童への指導に統一性が持ててなかったことがある。そのことから、サイレントの定着が思ったほど見られないという結果に繋がってしまった可能性がある。 →「児童側がサイレント掃除のメリットを理解しきれていない」と考えられる。 改善案：2学期当初に、再度、「サイレント掃除の目的」「サイレント掃除をすることで、どんな力をつけてほしいか」「どんな学年に育ってほしいか」について指導を取り入れることが有効かと考える。 1年生が2学期に掃除見学を予定している。（見本を見せる立場であることを、意識させていく） ○「あいさつ」 あいさつに関しては、なかなか声に出して挨拶を積極的にするとまでに至っていない。教職員から挨拶をしてもなかなか返ってこないことがある。そのため、引き続き、挨拶指導を積極的にしていくことが望ましいと考える。しかしながら、あいさつは本来、誰がにしなさいと言われてするも	○ 廊下歩行・右側通行については、全体的にできていると回答する児童が大半である。できていないと回答する児童は各学年2割程度存在する。 ○学校全体の安全面・規律面から限りなく100%に近づけることが必要であると考えている。児童は、「頭ではわかっているが、行動に移せない」や、「わかっているが、急いでいるから」という理由で守れていない児童がほとんどであった。 ○『前もって～しておく』という計画性の身につける必要性」「後の行動を考えて行動する習慣の未定着」が考えられる。 ○改善案として「授業後、次の授業の準備をしてから行動させる指導」「予鈴が聞こえたら、今している行動をすぐにやめる決断力を持たせる指導」を取り入れる。 ○ サイレント掃除については、余計な話をせず掃除が全学年共通してできていないことがわかる。 ○1学期にサイレント掃除の目的については共有し、統一した指導をした。依然と同じく、全学年を通して完全なサイレントは実現できていない。 ○児童側にサイレント掃除の意義・目的」「『前もって～』という計画性を身につける必要性」があると考える。 ○ あいさつに関しては、児童・教職員側も肯定的に捉えていることから、引き続き、あいさつ指導を積極的にしていくことが望ましいと考える。	○ 「子どもは、交通ルールを守って登下校している」に関しては、98.1%の方が肯定的に回答している。 ○大きな問題が起こる登下校の仕方はしていないが、道に広がって登下校している姿が見られることや地域からの登下校について否定的な声があることから、保護者側の認識と学校側の認識、地域の方の認識にズレがあるように感じる。 ○学校側でも安全安心に登下校するための指導を徹底する必要がある。 ○「子どもは、あいさつを進んでしている」というところに関しては79.9%の方が肯定的な回答をしている。地域の方への挨拶や、家での挨拶習慣からできていないのではないかという意見を持つ保護者の方々がいることがアンケートからわかる。 ○あいさつについては、なぜあいさつをするのかを、子どもたち自身が考える指導を取り入れる。同時に、あいさつをされた経験を振り返る活動も取り入れる。		○運営委員会による「正しい廊下歩行」に関する動画作成や、「あいさつ運動」をすることで、全校児童に対して啓発することができた。 ○丁寧な学級指導を教師が継続して行ったりすることにより、成果が見られるようになってきた。大半の児童の規範意識は高く、自ら廊下歩行やルールを守ろうとする姿が大変印象的であった。 ○「サイレント掃除」については年間を通して定着が見られない学年が多く見られた。静かに掃除するメリットを教職員で共有し、児童への指導を続けたが、学校全体を通しての改善には至らなかった。 ○「あいさつ」については大半の児童が自主的にあいさつしようとする姿が見られるが、「気持ちを込めてあいさつをする」という点では課題が残る。○誰に対しても、自らあいさつすることにより、お互いに気持ちよく生活し、笑顔で包まれる学校を一人一人が創っていくんだという気持ちを育てていかなければならない。	○サイレント掃除に関しては、年度初めに共通認識を教職員間で図り、統一した指導続けることが有効であると感じる。また、各担任が自学級に指導するだけではなく、全校児童にも声をかける意識をもち、全教職員で全児童を育てる認識をもつことが必要となってくる。 ○あいさつについては、あいさつをかけられた方のうれしい思いを考えさせながら、あいさつの指導をしていくことが引き続き必要となってくる。 ○「ルールを守る」ことは「自分を大切にすること」「周りのみんなを大切にすること」につながることだと児童に浸透させ、自らルールを守っていきたいと思える児童の育成を図っていきたい。	○規範意識は高いかと思う。廊下歩行やあいさつはしっかりできている。 ○交通安全に関する取り組みを進めてほしい。
4	○気持ちを豊かなものにするために、言語活動の充実を図り、自分の思いや意見といった気持ちを伝え合う授業を工夫をする。 ○より良い話し方・聞き方が身に付き、主体的に自己を表現できるようになるために、国語科の「話すこと・聞くこと」を中心とした言語活動において、話す内容の可視化、発表の方法や要点等に気付かせる支援の方法を工夫する。 ○伝え合うことの喜びや楽しさを感じ、表現することへの意欲を高めるために、身に付けた技能を生かす授業を創造する。 ○自分の考えを伝えたり、交流を通して仲間との学び合いにより、「人との関わり」を大切にした授業展開を行う。 ○「相手に自分の考えを伝えることができた」「相手の考えを知ることができた」「友達の考えや意見を聞いて、考えを深めることができた」と答える児童がそれぞれ80%以上いる。		○「相手に自分の考えや意見を言葉で伝えることができた」の問いでは、「できた」や「どちらかというとできた」と答えた児童がすべての学年で8割以上であった。また、「話し合いの中で、相手の考えや意見を知ることができた。」の問いでも、どの学年でも、8割超えであった。各学年、ペア学習・グループ学習などを行い、意見や考えを述べるハードルを低くしたり、友達の考えに共感したら手をあげたりと実感しやすい授業づくりを意識した結果だと言える。 ○一方で、話し合い活動では、学級経営力が必然的だと感じる1学期であった。何を話しても受け止めてくれる、失敗や間違いを発信しても、受け止めてくれる仲間がいるなどの安心感や実感をともなうことで、子どもたちは積極的に話し合い活動に参加できるといえる。 ○2学期以降は、子どもたち自身が話し合いの場に慣れるとともに、教師側があたたかい学級づくりを心がけていくことも必要だと感じる。	○1学期のアンケートに比べ、肯定的な回答が得られているところが多い。 ○2学期に積極的に言語活動「話す聞く」を意識した取り組みを各学年で行った。 ○重点的に話し手が話しやすい環境や聞き手が受け止める環境が保証されている学級経営をめざすことが、「話す・聞く」の学習活動が行いやすい環境へとつながる。そういった環境が、学年単位でつくれた結果であるといえる。 ○3学期以降も引き続き継続していきたい。	○「子どもは、授業の中で仲間と意見や考えを伝え合うことに喜びや楽しさを感じている。」では、肯定的な回答は82.8%だった。比較的高い数値ではある。 ○より高い数値を目指せるよう、授業参観などで国語科の「話す聞く」の単元の授業をしたり、教科にかかわらず言語活動を積極的に取り入れた授業をしたりすることを今後検討した方がよい。 ○「子どもは落ち着いて、人の話を聞いたり、自分の考えを話したりするようになっている。」では、肯定的な意見は86.2%であった。 ○各学級で話す聞く姿勢について継続的に指導した結果だといえる。今後も引き続き指導を継続していきたい。		○本年度は国語科の「話す聞く」単元において、相手に自分の考えや意見を伝えること（話し方）や相手の考えや意見を知ること（聞き方）に研修の重点を置いた。 ○成果は、以下の二点ある。 ○第一は、伝える・聞く活動の基礎を教員自身が学ぶことができた点である。昨年度までのタブレット活用から一転、教科を国語科と設定したことで、指導案の書き方や授業の組み立て方など、国語科について、基礎から細かく学ぶことができた。 ○第二は、授業や朝の学習時間などに話し合い活動を取り入れることができた点である。各学年の実態に合わせて、より意見を伝えやすく、聞きやすくなる活動を取り入れ、子どもたちが普段から自分の気持ちを伝えやすくなるようにした。 ○来年度も、同じテーマで取り組み、子どもたちが自分から意見を発信し、それを受け止める環境をつくっていくために、教員の授業のよりよい工夫を考えていきたい。	○今年度初の研究であったため、まだまだ授業内の工夫を学びきれていないところがある。 ○来年度は講師の先生を呼ばずとも、本校職員のみでも学んでいける視点を養っていきたい。	○タブレット活用は、かなり進んでいるように感じている。 ○1年生が、タブレット捜査に悩まないように、幼稚園でも取り組みを進められるよう働きかけたい。 ○学校行事や授業の参観より、先生方の取組の成果や、言語活動の活発化を感じることがきる。今後も、子どもたちの言語活動の伸長に期待している。